事前研修 担当:渡邉 三恵

旅行説明会	平成23年8月10日(水)
	午後2時~午後5時
ドイツ研修(会場:新宿文化センター 第4会議室)	
①新宿区の多文化共生について(20分)	亚比 92 年 9 日 19 日 (人)
(新宿区多文化共生担当副参事 月橋 達夫氏)	平成 23 年 8 月 12 日 (金)
②ドイツ語基本研修・ベルリンの現代事情	午後1時~午後5時
(講師:千葉商科大学講師 山田 美奈子氏)	
新宿区長表敬訪問	亚出 22 年 2 日 22 日 (水)
①新宿区長表敬訪問(30分)(会場:新宿区役所本庁舎3階第一応接室)	平成23年8月23日(火)
②出発前最終打ち合わせ会(会場:新宿区役所本庁舎3階302会議室)	午前9時~午後12時

8月10日(水)

今日は、メンバーが初めて顔合わせする事前研修初日です。私も、この日を緊張しながら迎えました。 最初に、今回の派遣団団長となる新宿未来創造財団鯨井主幹より、今回の派遣に向け、①メンバー同 士が交流して情報や感想を共有してください、②ドイツ・ベルリンについて、可能な限り下調べをして ください、③日本の文化をどのように伝えていくか考えてください、という 3 つのお願いを盛り込んだ 挨拶をしました。

その後、いよいよ参加者の自己紹介です。1人3分程度で、名前・年齢・学校・応募動機などについて話しました。教育・環境・異文化コミュニケーション等専攻分野も関心分野も様々なメンバーです。ドイツ・ベルリンで同じものを見ても、この個性的で好奇心旺盛なメンバーなら、感じ方・考え方もそれぞれ異なり、それを共有することで経験がより充実したものになるはずです。2週間後に控えた派遣が楽しみになりました。





8月10日 初対面!!

8月12日 ドイツ語講師山田先生のスパルタ授業

8月12日(金)

新宿区多文化共生担当月橋副参事より、新宿区の多文化共生についての講義を受けました。新宿区の大きな特徴として、新宿区住民の9人にひとりが外国籍の方であるという外国人居住者の多さが挙げられますが、ミッテ区はそれより多く住民の3割以上が外国籍の方ではないかということです。外国人居住者が多くなった経緯は、両区で異なるものでしょうが、同じ現実を抱え、それに対しどのように事実を捉えているか、どのように今後を考えているのかということを客観的に見てきたいと思いました。

その後、ドイツ語基本研修を受けました。たった 2 時間しかドイツ語研修の時間が取れず、講師の山田先生も講義内容に苦慮されたとのことですが、ドイツ語の基本的な発音を勉強しました。ドイツ語は、ドイツ語特有の発音や文字などがありますが、それを覚えれば、基本的な単語は発音することができるようになるそうです。必死の 2 時間でした。その後、山田先生のベルリン滞在中の様子を聞き、派遣がますます楽しみになりました。

8月23日(火) 区長表敬

中山弘子新宿区長を表敬訪問する日がやってきました。フォーマルなスーツに身を包み、メンバーがひときわ輝いて見えます。区長室では、鯨井団長から派遣にあたっての抱負などを含んだスピーチを行った後、メンバー1人ずつ区長へ自己紹介をしました。区長を前にしても、堂々と自分のことを話す青少年メンバーが、とても誇らしく感じられます。

区長からは、「新宿区の代表としてベルリン市ミッテ区に行くので、短い準備期間の中でも、できる限りの情報を収集して、聞きたいこと等目的意識を持ち、健康に気をつけて派遣に臨んでください。」と激励のお言葉を頂きました。また、「新宿区とベルリン市ミッテ区の同じところ・違うとこを見つけることは、客観的に自分達の住む『新宿』を考えることになる。」「実際に現地に行って、見て、話を聞くことは、ただ話を聞く事の 100 倍以上の価値がある。」という印象的なお話を頂きました。区長の言葉通り、短い期間ですが青少年メンバーには、いろいろな経験をしてきてほしいなと思いました。

その後、いよいよ出発前の最終打合せです。出発当日の確認や航空券の受け取り等、出発がいよいよ4日後に迫っていることを実感させられました。



8月27日(土) ~1日目~

9:20 新宿駅に集合

成田エクスプレスに乗るホームに集合しました。電車が来るまでの間、スーツケースの 大きさを比べたり、中身について話したりしていました。区の方たちも見送りに来てくだ さっていました。

9:39 成田エクスプレス出発

成田空港まで 1 時間半でしたが、メンバー同士で話したり、少し眠ったりしていると、あっという間に到着していました。空港に着くと、これからベルリンに行くという実感が徐々にわいてきました。成田空港では種々の手続きをした後、出発までに軽食を取ったり、両替をしたりしました。見送りに来て手続きを手伝っていただいた京王観光の長谷川さんともここでお別れになるので、記念に写真を撮りました。



成田空港にて、長谷川さんを囲んで

13:30 成田空港発

今回は飛行機を乗り継ぐため、まずは KLM オランダ航空でアムステルダム空港へ向かいます。結構混雑していたため、残念ながらメンバー全員が近くの座席にはなりませんでした。およそ 12 時間の長いフライトですが、ひたすら睡眠をとる人、映画を何本も観る人、ドイツ語の勉強をする人など、みなそれぞれに時間を過ごしたようです。昼の機内食はすき焼きで、「最後の日本食」と言って食べましたが、なかなか美味しかったです。



機内食

担当:田主 陽

18:05(現地時間) アムステルダム空港着

長いフライトを終え、ベルリンまであと少しです。アムステルダム空港はとても広く、種々のお店からカジノ、美術展まであって驚きました。ここでは入国審査などの時間以外にも 1 時間以上あったため自由時間となり、それぞれがお店を見たり、カフェで休憩したり、中には早くもお土産を買っている人もいました。日本時間だともう深夜のはずなのに外がとても明るいため、少し不思議な感じがしました。



利用した KLM の飛行機

20:35 アムステルダム空港発

オランダまでの飛行機よりも小型の飛行機に乗ってベルリンのテーゲル空港へと向かいます。1時間半ほどの短いフライトで、さっき離陸したのにもう着いてしまったという感じでした。飛行機に乗る前に、搭乗口で東京に16年住んでいたことがあるというドイツの方に偶然出会いました。日本語が本当に上手な方で、新宿の話で盛り上がったりしました。

21:50 テーゲル空港着

テーゲル空港はそれほど大きくない空港で、手続きはほとんどありませんでした。出口ではこれからお世話になる Oliver と Norbert、そして通訳の Yoko さんが待っていてくれました。空港から外に出ると予想以上に寒く、半袖を着ていた僕は上着を全部スーツケースの中に入れてしまっていたことを後悔しました。今回泊まるホテルは空港から遠いので、バスと電車を乗り継いで行きます。バスはベルリンの中心部を通り、Oliver がいろいろな建物について説明をしてくれて、翌日からのプログラムがとても楽しみになりました。ホテルに着くと翌日の行程について Yoko さんから説明を受け、各自の部屋に向かいました。部屋には食べものと水、果物を用意してくれていて、夕食から時間がたっていたので早速いただきました。僕は飛行機で眠らなかったため、シャワーは朝浴びるということにしてすぐに寝てしまいました。

9:00 ドイツにて初めての朝食

ドイツに到着して迎える初めての朝です。みんな時差ボケもなくすっきりとした表情でした。8月にも関わらず予想以上の寒さで「寒い、寒い!」と言いながら朝食を食べるカフェに向かいました。ドイツでの初めての朝食はベーグルサンドです。中にはクリームチーズとジャムが挟んでありました。温かいカフェとベーグルはとてもおいしかったです。

10:00 ミーティング

朝食をとった後、電車に乗ってミーティング会場に向かいました。会場では前日迎えに来てくれた Oliver さんと Christine さんが待っていました。このミーティングでは今回このプログラムに携わっているメンバーの紹介とプログラムの説明がありました。プログラムの説明では Christine さんが絵を描きながら一日ごとの大まかな流れを説明してくれました。この説明の合間に私たちメンバーの自己紹介もしました。みんな英語、ドイツ語で緊張しながらも、このプログラムに参加した動機、このプログラムでどんなことをしたいかなどを伝えていました。プログラムの説明を聞いて、これからのプログラムがますます楽しみになりました。



Welcome in Berlin のポスターでお迎えしてくれました



担当:國司 奈緒美

プログラムの説明風景

ミーティングが終わった後は Christine さんがベルリンで有名なカレー味のソーセージであるカリーブルストのお店に連れてってくれ、昼食をとりました。カリーブルストは事前においしいと聞いていたのでみんな楽しみにしていました。味は聞いていた通り大変おいしかったです。しかし女の子たちはカリーブルストと付け合わせのポテトの量に苦戦し



ていました。

カリーブルスト

14:00 市内観光

昼食をとったあとは市内観光です。ドイツの学生の Ema さんがガイドとしてベルリンを紹介してくれました。ハクシャマルクト駅から出発し、建物に囲まれたてできた中庭という意味のホーフェや、旧東ドイツの信号のマークだったアンペルマンのグッズを売っているアンペルマンショップ、壁や建物がカラフルに落書きされたハウス・シュヴァルツェンベルク、マンガ図書館、シナゴーグ、映画「グッバイ、レーニン」の撮影で使われた建物などを訪れました。どれもガイドブックには載っていないような場所で、ディープなベルリンを体験することができました。



美しいハクシャー・ホーフェ



カラフルなハウス・シュヴァルツェンベルク

19:00 夕食

滞在しているホステルの近くのレストランで夕食をとりました。夕食にはミッテ区の議員さんもいらっしゃいました。夕食は魚料理、鹿肉のロースト、パスタからそれぞれが好きなものを選びました。またビールやワインも飲みました。夕食ではメンバー同士一日を振り返ったり、Norbelt さんにお話を聞いたりとても楽しい時間を過ごしました。



夕食でドイツでの初めてのビール、ワインで乾杯

感想

ベルリンでのプログラムが始まる一日目ということもあり、初めは非常に緊張していました。しかし、優しいスタッフの方に出会い、今回のプログラムの説明を受けてさらにこのプログラムに対する期待感が増した一日となりました。私は夕食でドイツで初めてのビールを飲みました。提供される量の多さに驚きましたが、とてもおいしかったです!

午前中 ドイツ連邦議会議事堂見学

ドイツでの2回目の朝を迎えました。朝が早かったからか、それとも寒さのせいか、朝食に向かう間は口数も少なかったようでした。朝食を終え元気になるとまだ慣れないドイツの街並みにわくわくしながら、午前中の見学場所であるドイツ連邦議会へ向かいました。連邦議会ではガイドの方がドイツ、特に議会や建物自体の歴史などをお話ししてくださいました。建物の



担当:峰村 仁子

中には迫害されたユダヤ人に対し哀悼の意を示すものや、ソ連軍に占領されていたころに 書き残された落書きが残されていました。改めてドイツが抱える歴史の重さや、またそれ



をしっかり受け止めようとしているところから歴史や伝統を重んじるというドイツ人の国民性を感じました。議場には一般市民が傍聴することができる席が設けられていましたが、機能的部分だけではなく建物にガラスを多用していることやあらゆる箇所に展示された美術作品からも、文化的で開放的な親しみやすい印象を覚えました。建物の屋上ドームからはベルリン市内を一望することができ、且つ

中心から議場がのぞけるようになっており、たくさんの観光客が訪れていました。議事堂を訪れる観光客の多さにも驚きましたが、見学を通してドイツがいかに開かれた政治を目指しているか、感じ取ることができました。

午後 博物館 Story of Berlin 見学

ドイツ連邦議会の見学を終え昼食を食べ終わった後、Story of Berlinへ向かいました。そこでは最初に冷戦時西ベルリンに作られた核シェルターを見学しました。約3,600人が収容できるように造られていたもので、現在も使用可能であるものでした。このような核シェルターは西ベルリン側だけでも16個あり、実際に





使用する準備を進めたことがあったそうです。結果的に使用されることはなく冷戦の終結を迎えることができたわけですが、冷戦時代の緊迫した本物の雰囲気が伝わってきました。核シェルター見学後、Oliverと一緒に原子力について個人個人の意見を交換し合いました。日常生活で議論をする場はあまりなかったのでとても新鮮でした。博物館内にはベルリンという名前が登場する1237年から現在までのベルリンの歴史について展示されており、各々が自由に館内を見学し見識を深めました。

19:00 クロイツベルク

Story of Berlin での見学を終えた後、ベルリンの中心部にあるクロイツベルクという街に行きました。クロイツベルクはベルリンの中でも特に移民がたくさん住んでいる街で、それまで行ったベルリンの街とは一味違う雰囲気でした。中でもテレビのアンテナがそれぞれの母国の方を向いている光景は特に印象的でした。クロイツベルクの街を楽しんだ後はトルコ系のレストランに入りみんなでケバブを食べました。ケバブは日本で売っているものに比べとても大きく、大満足でした。食事の間も Oliver や Norbert を交えて話をしましたが、話題は尽きずあっという間に時間が過ぎていってしまいました。





21:00 ホステル

ホステルに戻ってからはさよならパーティーのミーティングを行いました。事前研修の 時にはまだ会話もぎこちなかったのですが、このミーティングでは団結力が高まっている のを感じることができました。

8月30日(火)~4日目~

タイムスケジュール タイムスケジュール

08:45~ 朝食

10:00~ Otto Weidt 作業所 見学

アドレス: Rosenthaler Str 39 10178 Berlin

ガイド:ローレンツさん

Otto Weidt のブラシ工場、 彼が助けたユダヤ人、 助けられなかった家族 …等の話を途中涙しながらも 話してくれました。



担当:渡邊 未奈

館長のホフマンさん、髭が素敵でした!

12:00~ ランチを食べながら移動



ランチバックの中身は パン・りんご シリアルバー・水でした!

14:00~ Sachsenhausen強制収容所 見学

アドレス : Strasse der Nationen 22 16515 Oranienburg

ガイド:エリザベートさん→Oliver

途中からガイド役をしてくれた Oliver。

当時のベッドが展示してある バラック内で、閉館ぎりぎりまで 戦争中のことや冷戦期のことを 話して質問にも答えてくれました



19:00~ Potsdamer PL駅 で解散、自由行動

私たち4人はLindenbraeu で夕食を食べました

(↑ソニーセンター内にある有名なレストラン.)

他の人たちは買い物をしたそうです

【Otto Weidt 作業所】

中に入ってみると、あまり広くはないスペースに Otto Weidt や彼が助けようとしたユダヤ人に関する資料がたくさん展示してありました。 Otto Weidt はもちろん彼がかくまったユダヤ人たちの写真、ブラシ工場にあった機械、ユダヤ人が隠れた秘密の部屋を再現したもの、ユダヤ人のパスポート、ユダヤ人が Otto にあてた手紙 (↓写真) などです。

ローレンツさんの話によると、厳しい管理の中でも手紙を送ることができる収容所がありました。さらに、郵便を受け取ることもできて、外にいる人に物資を求めていたそうです。しかし、直接的に「パンがほしい」などと書くことはできません。そこでパンを作っている会社の名前を混ぜて暗にメッセージを送っていたそうです。私は、ここからやはりホロコーストは突然起きたことではなく、



ユダヤ人迫害が徐々にエスカレートしていった結果であったのだと感じました。日本の教育では、その結果、つまりどれだけの犠牲者がでたか、ということが強調されすぎているのではないでしょうか。本当に重要なことは、背景を知ることだと思います。

そして、その手紙の送り主であるユダヤ人女性はこのミュージアムを訪れたことがあるとも聞きました。彼女はその時、当時のことをどう思い出したのでしょうか。現在までの時の流れ、変化をどう感じたのでしょうか。そのようなことを考えると、ここで私が見たものは遠い過去の歴史ではなく、現実についこの前起きたことなのだと思い知らされます。

【Sachsenhausen 強制収容所】

Sachsenhausen では広い土地に残る収容所の跡を見学しました。石が埋めて並べてあるものは取り壊されたバラックの跡だそうで、すべてが残っているわけではありませんでしたが、一部のバラック、資料展示室になったキッチン、人体実験が行われた地下室、格子鉄線、見張り場などがあります。エリザベートさんの話では、ここに収容された人々は同じサイズの服と靴を身に着け、日中は労働させられていたそうです。その前後には点検が行われ、移動式の絞首刑台で見せしめも行われていました。また、子どもも人体実験の対象とされましたし、薬の効果を試すためにわざと火傷を負わされることもありました。自分が今まさにその場所にいると思うと震えを感じてしまいます。

さらに、中央にはソ連が建てた記念碑も残っています。それは、戦後この収容所がソ連に占領されたためで、皮肉なことに今度はドイツ人も虐殺されることになったそうです。戦争は本当に負の連鎖なのだと思いました。「戦争によいことなど一つもない」とよく言われます。しかし、だからと言って目を背けることが平和をもたらすわけではありません。周辺の学生は学校の行事としてこの収容所を訪れるそうです。幸いにまだ語り部の方々もご存命の今、あの大惨劇を風化させない、繰り返させないために何ができるのでしょうか。それはドイツで起きたことかもしれませんが、人類史に残る大きな出来事として、日本人である自分も自らのこととして考えなければならないと感じました。

8月31日(水)~5日目~

今日は午前中にシャルロッテンブルク宮殿を見学し、午後は青少年センターWerk9 でミュージックワークショップ(青少年交流)をしました。

担当:森村 優

{シャルロッテンブルク宮殿}



写真:宮殿の正面

私が旅行中、一番楽しみにしていたプログラムです。ヨーロッパの宮殿は日本より絢爛 豪華で、見ているとわくわくしてきます。シャルロッテンブルク宮殿はフリードリッヒ 1 世が妻のソフィ・シャルロッテのために建てた別荘です。この宮殿の庭はとても広くて美 しいのですが、見に行く時間がなくて残念でした。私たちは日本語のオーディオガイドを 聞きながら見学しました。通訳の Yoko さんは何語のガイドを選んだのでしょうか…。ガイ ドの説明が詳しく丁寧なので、見学後半は飛ばしながらたくさんの部屋を見て回りました。 宮殿内は肖像画が至る所に掛けられ、壁も天井も絵で埋まっていました。また、ソフィ は中国調度品が好きだったため、いろいろな所で中華風の家具を見つけました。圧巻だっ たのは、ここは中国かと思うくらい、中国の陶磁器がびっしり置かれた《陶器の間》です。 それまでも華やかな部屋を見てきていたので、ちょっと酔いそうになりました。凝った内 装の部屋は多いですが、宮殿は第二次世界大戦で一部壊れてしまったため、修復されてシ ンプルになった部屋もあります。後半は落ち着いた部屋だったので気分も落ち着きました。 そして驚いたのは、宮殿の中に礼拝堂があったことです。作りは教会と同じくらい広く、 100 人程入りそうでした。装飾はもちろん豪華で、天井付近に天使が飛んでいました。しか し、別荘の主人であるソフィは礼拝堂完成の前に亡くなってしまったそうです。シャルロ ッテンブルク宮殿は長い年月をかけて作り上げられたのですね。

{青少年センターWerk9}

Werk9 は青少年にフリータイムで過ごす場所を提供するために作られました。今回の旅行で一番お世話になった Oliver と Norbelt が深く関わっています。ここにはバンドを組んでライブをするための練習室やステージ、飲み物を出してくれるバーもあります。

最初にミッテ区の区議会議員の方がミッテ区の紹介をしてくださいました。ミッテ区は

移民の方々が生活しにくいという問題を抱えていて、対策に追われているそうです。次に、Norbelt が Werk9 の紹介をしてくれました。話のあと、ドラムやギターを体験させてもらいました。どちらも見た目より大変でした。ドイツ人と少し演奏もしました。夕食は Werk9でバーベキューです。大きいソーセージやステーキを次々に焼いてくれました。ここでドイツ人と会話して仲良くなっていくはずなのですが、私は英語が苦手なので話しても続かないという難点があり、ずっと黙っていました。青少年交流は、一番緊張していたプログラムです。私は日本人でも初対面だとうまく話題を作ることができないのに、なおさらドイツ人とは何を話せばいいのか分かりませんでした。そんな時、卓球台があると聞き、遊びに行きました。すると、ドイツ人が大勢でやる卓球ゲームを教えてくれたので参加しました。卓球は会話しなくてもできるため、日本人もドイツ人も交じってとても盛り上がりました。英語が苦手な私はすごく救われました。そして、不安だった交流が楽しくなってよかったと思いました。最後に、交流してくれたドイツ人の皆さんに風呂敷とコアラのマーチをプレゼントしました。

Werk9 ではあまり話せませんでしたが、英語やドイツ語をもっと勉強して、自信を持ってドイツ人と会話できるようになれたらいいなと感じました。



写真:Werk9入口

どんな施設か知らなかったら劇場かと思うほどユニークな外観です。 中もレプリカの岩が壁や天井にくっついていて、面白いです。



写真: Werk9 内部

9月1日(木)~6日目~

担当:内海 裕子

この日はいつもより少し早めに朝食に向かい、9 時に環境省に向かいました。Potsdamer Platz の駅を出てすぐのところに環境省がありました。環境省は1か月前にこの場所に引っ 越してきたばかりだったそうで、まだ工事が続いていました。建物の中に入るととてもき れいで現代的で、みんなまずお手洗いを借りたのですが、その個室の広さにとても驚きま した!

わたしたちにドイツの環境について教えてくださったのはコールさんという男性の方で した。環境省の組織の仕組みや役割、移行期ともいえるエネルギー政策のこれからや、ド イツにおける環境政策について、詳しく教えてくださいました。ドイツは日本での震災を

受け脱原発という姿勢を決定しましたが、この決定までには非 常にたくさんの議論がもたれていました。東日本大震災という のは遠く離れたヨーロッパの国にも大きな影響を与えていた ということが体感できました。

コールさんのお話が終わると、わたしたちと同年代のインタ ーンシップの学生が環境省の建物の歴史や特徴について説明 してくれました。この話の中でもベルリンの壁は印象的でした。 次に環境省の内部を案内していただきました。中庭部分にも屋 根がついており、夏でも冬でも過ごしやすい気温に保たれてい ます。こういったところもより省エネの建物を目指しているこ との表れなのでしょう。また中庭にはスピーカーや照明機器も



環境省内部の壁

揃っており、パーティーが催されることもあるそうです。建物の暖房設備としては排水か ら熱を取り込む方法を用いるなど、環境に配慮した設備を積極的に取り入れているそうで す。一番驚いたのは、建物の中にベルリンの壁が通っていたことです。建物の工事を終え てから、もともと壁のあった場所に壁を再び設置したそうです。決して壁を忘れようとせ ず、未来に残すべきものとして積極的に保存している姿というのはとても印象的でした。

11 時頃、環境省を後にし、シュトレッカーさんと合流しました。彼はベルリンの一市民



としてわたしたちにベルリン市内の自然環境について教えたい、と 話していました。まずみんなで昼食を食べに行きました。チェーン 店のおしゃれなイタリアンで、みんなパスタやピザを楽しんでいま した。昼食を終えると Tiergarten に歩いて向かいました。

Tiergarten はベルリンの中心に位置する広大な公園で、市民の憩い の場となっています。公園の中心部まで歩いていくと、そこには大 きな石のモニュメントが輪を描くように並んでいました。石には "Hope"や "Love"といった言葉が刻まれていました。これらの石 は各大陸から運んできたもので、夏至の日には太陽の光が全ての石 に反射して大きな輪を描くそうです。世界が一つにつながるという

ことを表現しているとても素敵なメモリアルでした。

次に電車に乗って、Garten Arbeits Schule に移動しました。ここは庭仕事に関する学校のような場所で、小さな子供たちが自然に触れて学べる庭のような施設でした。わたした



ちが訪れたときはちょうど小さな子供たちがりんご ジュースを作っているところでした。きらきらした 目をした子供たちと触れ合って、みんな癒されてい ました。この施設には絵本から出てきたかのような かわいらしい小屋があったのですが、屋根に草が生 えていたり植物性油で作ったペンキを塗料に用いる

など、自然をふんだんに用いて作られたそうです。この あと Panke 川のほとりをみんなで散歩し、シュトレッカ ーさんと別れました。

この日はホームパーティーに呼ばれることになっていたのですが、時間がだいぶおしてしまい、訪問先に持っていくワインやケーキが買えない!ということでみんな



少しイライラしていました。そんな中Norbertに会い、訪問先に向かう途中でわたしたちは気付きました。今から行くのはNorbertのおうちではないか・・・!?!と。みんなの予感は的中し、この日の夜はNorbertのお宅でホームパーティーに参加させていただきました。0liverと2人の息子さんも来てくれて、わたしたちは本当に楽しい時間を過ごすことができました。Norbertと0liverは、この日誕生日の鯨井さんに向けてピアノとギターで弾き語りをしてくれました。とても盛り上がり、本当に忘れられない夜になりました。

後日 Yoko さんに伺ったところ、Norbert と Oliver は今回のプログラムにホームステイがなくなってしまったことをとても気にしており、どうにかしてわたしたちにホストファミリーのような家族を作ってあげたいと思っていたそうです。急に決まったパーティーの裏には、わたしたちがベルリンについてからもこのプログラムを充実させることに毎日毎日

尽力してくださったお二人の心 遣いがあったのだと思います。





9月2日(金)~7日目~

ミッテ区役所訪問

今日は、いよいよミッテ区役所へ行き、区長を表敬訪問する日です。スーツを着ている こともあり、朝は皆少し緊張した表情をしていました。

区役所へたどり着き、区長室を前にするとより一層緊張しました。新宿区の代表として ミッテ区へ来ているのだということを改めて実感しました。

まず、ミッテ区の Dr.ハンケ区長から歓迎の挨拶がありました。特に日本で起きた東日本大震災について Dr.ハンケ区長が述べたことが印象的でした。今回、ミッテ区は団結の意をこめて、ミッテ区と新宿区の友好のシンボルとして、青少年を招待したということでした。今後、長い復興への道のりが待っているとは思いますが、Dr.ハンケ区長の心強い言葉に励まされたと同時に、私たちを支えてくださる方々がいるのだということを強く感じました。次に、鯨井団長と渡邉さんが挨拶をしました。地震の後、外国から多くの支援を受け、人と人との絆の大切さを感じ今後もこの事業のようにface-to-faceで交流を深めていきたいという話をされました。次に、私たち青少年メンバーが今までのベルリンでの滞在で感じたことや学んだことを話しました。歴史と向き合うドイツの人々の姿勢や原発に対する考え方、市民同士のつながりの大切さについてなど、それぞれが思い思いに語りました。

最後に、Dr.ハンケ区長は歴史を見つめる大切さについて話してくださりました。また、ミッテ区では、経済的格差や移民とのコミュニケーションが重要なテーマとなっているということでした。印象的だったのは「皆が同じチャンスを持っている」から、子どもたちへの教育をしっかり行い、衝突を少なくすることが大切だというお話です。皆が同じチャンスを持てるような環境づくりに取り組むミッテ区の姿勢から学ぶことがあると私は思いました。



《表敬訪問したときの机の様子》



《歓迎の挨拶をする Dr.ハンケ区長》



担当:安藤 優子

《ミッテ区のシンボル》







《区役所前で若者の投票を呼び掛ける女性》

独日協会訪問

午後、私たちは独日協会を訪問するためダーレム博物館(Museum Dahlem)へ行きました。ここは、民俗学博物館です。ヨーロッパ以外の地域の作品が多く展示されており、アジアの美術品などがあります。

ダーレム博物館では、独日協会会長さんや博物館で日本の美術品を担当しているホーフマン博士から挨拶があり、その後独日協会の学生さんたちや私たち青少年メンバーが自己紹介をし合いました。日本語や日本文化を専攻している学生が多く、なんだか感動しました。そして、博物館の中を回り、主にアジアの美術品をホーフマン博士が丁寧に説明してくださりました。そのあとは、ケーキを食べながら独日協会の方や学生さんたちと楽しく談話しました。日本のお笑いを研究されている自由大学のWeingaertner教授によれば、日本のお笑いの特徴は「ストーリー性がない傾向にあり、一発芸が多い」とのことです。大変興味深いお話でした。最後に、独日協会の学生と日本の青少年メンバーで円になってディスカッションをしました。ドイツの学生が日本に興味をもったきっかけは音楽、マンガ、アニメ、料理、漢字など様々でしたが「変わったところだったから」というきっかけが最も印象に残りました。



《アジアの作品を説明するホーフマン博士》



《独日のみんなでディスカッション》



《みんなで"ゲッツ"!!!》

感想

今日は、午前中に区長を訪問し大変緊張しましたが、Dr.ハンケ区長から心強い励まし受けたり、青少年メンバーが各々の思いを伝えることができたり、とても充実した時間を過ごすことができました。直接話すことで、互いの思いがより鮮明に、強く伝わったのではないかと思います。

午後の独日協会の方々との交流では、とても楽しい時間を共有することができました。 地理的にはとても離れているドイツと日本の間でも、互いの文化や国に関心を持つことで、 こんなに語り合ったり、笑いあったりできるのだと思いました。異文化って、楽しい!と 改めて感じる一日でした。

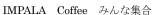
ドイツでの活動もあと2日です。毎日あっという間に過ぎてしまいますが、最後まで思い切り楽しんで学んで、たくさん吸収したいと思います!

今日は、1日自由行動の Free Day です。ここまで、自由行動時間がほとんどなかったため、みんなこの日を楽しみにしていたのではないでしょうか。私も、前日の区長訪問を終え、少しリラックスした気持ちで朝を迎えました。

私と鯨井団長は、いつもと変わらない時間朝 9:00 頃にいつも通りホステルのロビーに集合し、いつも通り IMPALA Coffee へ向かいます。今日は休日。休日朝のドイツの街は、静かで人影もまばらです。そんな、休日特有の雰囲気を味わいながら、カフェへ向かうと、峰村・国司組を発見しました。カフェに来る前に、ホステル近くの公園を散歩してきたという元気な 2 人。今日は、ポツダムの方へ遠出をするそうです。

ベーグルを食べていると、田主・齋藤組が、安藤・内海・加茂谷・森村・渡邊組が…と、 気がつけばメンバー全員が揃いました。連日のハードスケジュールで疲れも溜まっている 頃ですが、いつも通りに起きて行動を開始する好奇心旺盛なメンバーです。みんな、これ からどんな1日を過ごすのでしょうか。天気は、自由行動日和の晴天で過ごしやすい1日 になりそうです。1日楽しんで、そして気をつけて帰ってきてくださいね。







ベルリン大聖堂



荘厳な雰囲気「ベルリン大聖堂ステンドグラス」

ここからは、私と鯨井団長の行動を記します。

私達は、まず「ペルガモン博物館」へ向かうことにしました。ペルガモン博物館の最寄り駅は、HackescherMarkt 駅ということですが、まだ、ベルリンの交通機関を使いこなせていない私と鯨井団長・・。いつも、メンバーを頼り電車の乗り方を覚えようとしなかった私と鯨井団長・・。電車の乗換に不安があるため、Alexander Platz 駅から歩いてペルガモン博物館に行くということに決めました。歩くのは、得意です。

ペルガモン博物館の途中、見えてきた情緒深い建物は、「ベルリン大聖堂」です。ベルリン大聖堂はベルリン最大の教会で、16世紀以来ホーエンツォレルン家ゆかりの教会で、圧倒される大きさと、歴史の深さを感じさせる美しいたたずまいがひときわ目をひきます。予定にはありませんでしたが、中に入ってみることにしました。内部はモザイクや今にも浮き上がってきそうなステンドグラスが飾られ、天井のドームからは光が差し込み荘厳な雰囲気に溢れています。地下の霊廟には、ホーエンツォレルン家歴代の棺が納められ、私

達一般人も見ることができます。王家歴代の方々が大切に葬られている光景を目の当たりにし、背筋の伸びる思いがしました。外部も内部も美しさにあふれた教会でした。

予定どおりペルガモン博物館へ向かいます。ペルガモン博物館は、ユネスコ世界遺産「博物館島」の中でも年間訪問者数がずば抜けて多く、古代ペルガモンやバビロニア(現トルコ周辺)といったアジア最西域の古代遺跡・美術品を集めた博物館です。昔の遺跡の一部をそのまま博物館内に保存しているため、とにかくその大きさに圧倒されます。巨大な遺跡を前に、ドイツにいながらアジア最西域の遺跡が見られることが不思議に思えましたが、それはそれだけプロイセン王家が長く・強く権力を保持した結果なんだと、ドイツの積み上げてきた歴史を肌で感じるような気持ちがしました。







ペルガモン博物館:遺跡の一部がそのまま建物内に保存されている。こんな大きな博物館は初めてです。

少し遅いお昼ご飯を食べます。お昼は、シュプレー川沿いに並んでいるテラス席で摂ることにします。ドイツ人は、外で食事をするのが大好きです。ほとんどのお店が、道沿いにテーブルやイスを並べテラス席を用意しており、ビール片手に食事をしているドイツ人をたくさん見かけます。特に休日は、昼間から時間をかけて家族や仲間とゆっくり食事を楽しむドイツ人をたくさん見かけました。ドイツ人は、平日と休日をはっきりと区別し、休日はおもいっきりリラックスして楽しむ文化なのだと感じました。







シュプレー川沿い 陽気なドイツの人々

約2時間かけて、バームクーヘンを探しました。

天気も良く、美味しい食事をドイツで食べていると、このベルリンの旅へ送り出してくれた職場の仲間が懐かしく思い出されます。職場の仲間にはぜひ心を込めたお土産を用意したいと鯨井団長と話し、日本ではお馴染みのバームクーヘンを探しに行こうと考えました。ドイツでは、バームクーヘンはお祝い事の時にしか食べないそうで、バームクーヘン

を売っている店はガイドブックに1件しか載っていません。本場ドイツバームクーへンは、 どんな味がするのでしょうか。結局、バームクーへンを求め 2 時間近くも歩くことになり ましたが、苦労して探し当てたバームクーへンは、日本で食べるものともまた違い風味深 く、満足した気持ちになりました。職場の仲間もきっと喜んでくれるでしょう。

その後、「イーストサイドギャラリー」へ向かいました。イーストサイドギャラリーは、 現存する最長のベルリンの壁であり、その壁に世界中のアーティストが直接絵を描き、壁 をアートとして保存しているものです。この作品群は、壁崩壊直後、世界中のアーティスト 118人により創られたものですが、その大きさと色彩に圧倒されるとともに、「自由」や 「解放」を作品のテーマにしているものが多く見られ、歴史の重さも感じられ非常に見応 えのあるものでした。







ベルリンの壁がアートとして保存されている。

夕陽をあびるオストクロイツ駅と鯨井

夜は、ホステル近くのレストランで食事をしました。ベルリンでの生活も残り 2 日となってしまい、寂しく感じられる夕食です。メンバーはどんな一日を過ごしたのでしょうか。 無事に帰ってきたのでしょうか。いろいろと物思いにふけつつ夜は深まっていきました。

今日は、一日自分の足で歩いてベルリンの街を探索しました。ベルリンは、歴史を大事にする街であり、新しい文化を大事にする街でもあり、ドイツの首都として政治的にも商業的にも発展している街でもあり、自然を大事にする街でもあり、といったベルリンの魅力を感じることができる一日となりました。



イーストギャラリー:ソ連首脳(ブレジネフ)と東ドイツ首脳(ホーネッカー)がキスをする「兄弟キス」

9月4日(日)~9日目~

09:00 IMPALA Coffee

8:55 ホステルのロビーに集合し、まずは自由行動日の全員の 無事を確認しました。その後カフェに向かい朝食です。今日の ベーグルはターキーでした。

10:00 ダグマー夫妻と合流

カフェで午前中の案内をしてくれる、Dagmar 夫妻と合流です。今日は夫妻の赤ちゃんも一緒で、青少年みんなのアイドル 状態でした。夫妻と赤ちゃんと一緒に Eberswalder Straße を西に歩き、Mauerpark へ向かいます。



担当:齋藤 裕太



10:30 Flohmarkt am Mauerpark -マウアーパークの蚤の市-

500m ほど歩き、Mauerpark に到着しました。Mauerpark は日本語に訳すと「壁公園」という意味で、かつてベルリンの壁が公園内を横切っていたことにちなみます。現在では週末に大規模な蚤の市(フリーマーケット)が催されています。この日は、ライブパフォーマンスなども行われておりたくさんの人々で賑わっていました。

各店舗ではありとあらゆるものが売られています。どう見てもガラクタにしか見えないもの(破れた絵画や埃だらけのゲーム機など)を段ボールにゴチャ混ぜにして売っているお店もあれば、雑貨を丁寧に並べているお店もあります。食べ物や飲み物の屋台もあり、各自で適当に昼食を済ませ、ゆったりとした時間を過ごしました。





所狭しと並ぶ店舗

かなりの人を集めていたバンド

昼食(これでポテト小)



Mauer Park 東側の高台から西側を俯瞰

★Info★ Flohmarkt am Mauerpark : http://www.mauerparkmarkt.de/

13:00 Bernauer Straße -ベルナウアー通り-

昼食後、Mauerpark を後にして Dagmar さんの説明を聞きながら Bernauer Straße を西に歩きます。ここ Bernauer Straße 沿いにはかつてベルリンの壁があり、壁建設直後、旧東ベルリン側の壁に面した建物から飛び降りるなどして西ベルリン側に逃げようとした人が多くいたとのことでした。そのため、Bernauer Straße に面した旧東ベルリンの建物の窓は封鎖されました。現在はその壁面にベルリンの壁の歴史が描かれています。



(左から) Bernauer Straße の標識、ベルリンの壁跡地に埋めこまれたブロックとプレート、道路を横切り林の中に消えていくベルリンの壁跡、壁を乗り越えようとして亡くなった犠牲者の慰霊碑、東側から西側に逃れるための脱出用トンネルがあった位置を示すモニュメント

14:15 Gedenkstätte Berliner Mauer -ベルリンの壁記念センター-

Bernauer Straße をさらに歩き、ベルリンの壁記念センターへ向かいます。ここで一端 Dagmar 夫妻と別れ、Enes さんが案内役に。Enes さんからベルリンの壁の当時の様子、旧東ドイツでの生活、教育や宗教、Stasi(秘密警察)に関することなど、自身の体験を交えた貴重なお話を伺いました。



Dokumentationszentrum Berliner Mauer の展望台から南東側を俯瞰







壁の間から西側を覗く



壁建設により取り壊された建物基礎

★Info★ Gedenkstätte Berliner Mauer : http://www.berliner-mauer-gedenkstaette.de/

16:00 U-Bahnhof Bernauer Straße -ベルナウアー駅-

Bernauer Straße 駅から U8 で Weinmeister Straße へと向かいます。途中「マイキータレーシング」とカタカナで書かれたアルファロメオを見つけて一同大興奮!



16:10 Weinmeisterhaus -ヴァインマイスターハウス-

さよならパーティの会場である Weinmeisterhaus に移動し、パーティの準備と打ち合わせをします。ここ Weinmeisterhaus は青少年センターのようなところで、壁には子供たちの描いた絵がたくさん飾ってありました。



18:00 Abendessen -晚御飯-

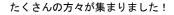
打ち合わせを終え、近所のレストランで晩御飯です。私はチキンのマッシュルーム煮をいただきました。ベルリンのレストランはどこに入っても本当に外れがありません。



19:00 さよならパーティ

再びWeinmeisterhausに戻り、さよならパーティ開始です。独日協会で出会った学生のみなさんや行程中にお世話になった方々が集まってくれました。出し物の 1 つ目は日本に関するクイズ。日本の文化や生活、法律に関するものだったのですが、正答率が高く驚きでした。出し物の 2 つ目は「となりのトトロ」の合唱。盛り上がるか不安でしたが、トトロを知っている子も大勢いて盛り上がり、大成功となりました。最後にお世話になったスタッフのみなさんに色紙とプレゼントで感謝の気持ちを伝えました。







〇×クイズの様子



最後にお世話になった方々にお礼

感想

蚤の市やベルナウアー通りでは各自思い思いに散策することができ、ゆっくり過ごすことができた一日でした。さよならパーティではみんな笑顔いっぱいで、絆をより深められたことと思います。しかし、ベルリンにやっと慣れてきたのに明日帰国するなんて信じられません。みんな「このままベルリンにいたい!」と口にしながら宿へと戻ったのでした。

9月5日(月)~9月6日(火)~9・10日目~ 担当: 加茂谷 吏絵

いよいよベルリンを去る日がやってきました。天気はあいにくの雨で肌寒く、ベルリンに到着した日を思い出しました。いつもよりも早く起きてパッキングを終わらせ、ホステルの玄関に集合です。これからみんなでいつものインパラカフェに向かいます。最終日ということもあり、安藤さんと内海さんは道路の反対側に渡りいつもとちがう風景を楽しんでいました。カフェに着き、いつも通りそれぞれ飲物を注文し、ベーグルを頂きました。カフェのお姉さん達も私達が来るタイミングにもだいぶ慣れ、スムーズにベーグルが出てくるようになっていました。10日間お世話になったのでお礼をいい、おいしそうなペイストリーがたくさんあったにもかかわらず、食べずに帰国するのが心残りでしたが、カフェをでました。

ホステルに戻り、行きよりもずっと重くなったスーツケースを玄関まで下ろします。みんな規定の23キロをオーバーしていないか不安で、お互いに重さ比べをしていました。斉藤君は資料を持ち帰りすぎて重量オーバーぎみでした。OliverとNorbelt、Dagmarが見送りに着てくれました。部屋の鍵を返し、ホステルのスタッフさんからお別れの言葉をもらい、いざ出発です。Dagmarとはここでお別れです。雨ということもあり、せっかく電車やトラムを乗りこなせるようになったのでホステルの前から駅までトラムで行きました。その後U-banにのり、Alexanderplatzまで行きます。何回も利用した駅でやっと見慣れた風景ともお別れです。そこからはバスで30分ほど走りTegel空港に到着しました。私と鯨井団長は免税の手続きがあるのでYokoさんと共に手続きをしました。予定よりもやや遅れ気味でチェックインカウンターへ。列も長く、搭乗開始時刻になってしまい、少しみんな焦り始めます。全員無事に重量規定にも引っかからずに出国ゲートへ向かいます。ここでOliver、Norbelt、Yokoさんとお別れです。全員とハグを交わし、感謝と寂しさで涙のお別れとなりました。3人は私達が見えなくなるまで手を振っていてくれました。

飛行機は20分ほど遅れて離陸しました。機内では行きと同じく、スナックとドリンクのサービスがありました。1時間ほどでオランダ、アムステルダムのSchiphol 空港に到着します。その後、10日前に見たのと同じアムステルダムのターミナルが私達を出迎えました。イミグレーションを通り過ぎ、次の成田行きの出発まで15分ほど時間があったので、一旦自由行動となりました。お土産にチーズを買っている人が多かったです。成田行きの便では、みんな席が近かったので話したり、映画を観たり、それぞれの時間を過ごしていました。機内食はパスタとサラダ、朝食もヨーグルトなどの軽食が出ました。約11時間後、無事に東京成田空港に到着しました。やはり東京は暑いです。帰国のスタンプを押してもらい、荷物を受け取りました。みんな集合したところで私達から大変お世話になった鯨井団長と渡邉さんに色紙と写真を贈呈しました。お二人とも慣れない海外で、個性の強い私達9人を上手くまとめていただき、ありがとうございました。

予定よりも早い成田エクスプレスに変更し、9:45 に成田空港を出発しました。内海さんとは方向がちがうので、成田空港でお別れです。電車内で鯨井団長から解散会があり、渡

邉さんからも今後の予定についてお話がありました。お二人とも次の日から通常通りお仕事のようです。新宿に着くまではみんなアドレスを交換したりしていました。出発前は全くお互いのことを知らない9人でしたが10日間の旅ですっかり仲良くなっていました。新宿駅到着後はそれぞれの電車にそれぞれが向かい、ベルリンミッテ区への旅は終了となりました。



ベルリン Tegel 空港からアムステルダムへ向かう便